

目指せ指導力アップ

小学教諭「教わる側学ぶ」

小学校で英語を教える先生たちの指導力アップにつなげようと、小樽市教委は16日、「小学校外国語活動特別研修講座」を小樽商科大で初めて開いた。市内の小学校11校の教諭ら約30人が受講。「教わる側」の気持ちを味わいながら、実際に英語で話す演習などに取り組んだ。

2020年度から小学校でも英語が教科化されることを見据えての試み。英国出身で樽商大言語センター教授のマーク・ホルストさんが講師を務め、講義や演習もすべて英語で行った。受講者は2人ずつペアになり、自分の趣味や好物などを書き入れた図を交換。ゲームや遊びの要素を取り入れることで、よりリラックスして楽しく対話が弾むことを体験した。

「普段、これほど英語を使うことがないので楽しかった。やはり、研修講座で対話を深めるための工夫などを指導するホルスト教授

樽商大で講座

慣れることですね」と奥沢小教諭の嶋影哲弥さん。張碓小教諭の櫛引暁子さんは、「教える先生が笑顔で何回でも繰り返して話してくれることが大切だなと感じました」と話していた。

(森川潔)



高めよう！英語力

小中生 検定対策は万全だ



ALTと模擬面接を行う小中学生 (小樽英語教育研究会提供)

ALTが模擬面接 小樽

子供たちの英語力を伸ばそうと、小樽市内の英語教師らでつくる小樽英語教育研究会(宮沢知会長)が北陵中で「英語検定対策講座」を開いた。

夏休み中の昨年8月に続き、2回目の今回は冬休み中の8日に開講。市内の小中学生40人が受講した。中には孫の小学生と一緒に参加した祖父も。英検4級レベルの受講者は6人の外国語指導助手(ALT)と各5分間ずつフリートークを行い、趣味や関心があることについて英語で語り合った。

3級レベルの模擬面接では本番を想定して受講者が試験官役のALTと対面。「自信を持って大きな声で話そう」などと助言を受けていた。研究会は新年度も同様の講座の開講を予定している。(森川潔)

小樽でもセンター試験

合格目指し第一関門

初日雪の混乱なく

大学入試センター試験初日の19日、後志管内で唯一の会場となる小樽商大でも試験が始まった。受験生は志望校合格を目指し、第一関門に挑んだ。

(前野貴大)

同大で受験する志願者は一人の計547人。前年より男性337人、女性210—9人多かった。受験生は午



前8時ごろから、保護者の車やタクシーなどで続々と会場に到着。入り口付近で出迎えた高校教師らから「普段の力を出し切るように」と激励を受け、気を引き締めた表情で校内へ向かった。

雪による交通機関の乱れが心配されたが、19日朝は混乱がなかった。試験は予定通り午前9時半から「地理歴史・公民」の試験が始まり、「国語」や「外国語」などの試験も行われた。

小樽商大を目指す小樽潮陵高3年の泉田直樹さん(18)は「やる気はあった。運に任せてがんばる」と話していた。倶知安高3年の狭間あかねさん(18)は「ベストの点数が出るように全力を出し切りたい」と言った。

最終日の20日は理科と数学の試験を行う。解答用紙などが配られた小樽商大の試験会場

小樽商大でのセンター試験を終え、会場を後にする受験生ら



大きな山越え

安堵の表情

小樽でもセンター試験終了

大学入試センター試験は最終日の20日、小樽商大でも理科と数学の試験が行われた。比較的穏やかな天候で、交通機関の乱れやトラブルなどもなく、2日間の日程を終えた受験生たちは、ひとまず大きな山を越え、安堵の表情を見せた。

同大によると、交通機関の乱れで試験に遅れた受験生はいなかったという。理

科と数学で、それぞれの試験が終わると受験生が会場から退室。ほっとした表情で友人らと手応えを話し合いつつ、迎えに来た保護者の車などで家路へ急いでいた。

北海学園大経営学部が第1志望だという小樽未来創造高3年の寺井彰吾さん(18)は「難易度が高かったように思う。センター試験が終わって一山越えたように思うけれど、まだまだ気は抜けない。とりあえず今日はゆっくり寝ます」と話した。

北海学園大文学部が第

1志望の双葉高3年の北市真稀さん(18)は「緊張しました。英語の筆記が難しかったです。センター試験で

終わりではないので、気を抜かず頑張ります」と引き締まった表情を見せていた。(渡辺佐保子)